

それぞれが持つ、それぞれの祭

赤池 会社員

山崎 赤池の同僚。

豊島 赤池の課の課長

三田 部長。

オフィス。

事務作業中の山崎の所に赤池がやってくる。

赤池 山崎。

山崎 ん？

赤池 これ。(袋を渡す)

山崎 え？何？

赤池 誕生日だろ？

山崎 お、ありがとう。・・・コーヒー豆。

赤池 ちょっと良いやつ。

山崎 ありがとう。あ。

赤池 ん？

山崎 誕生日の事、課長には内緒で・・・。

赤池 ああ判ってる判ってる。

豊島がやって来る。

豊島 いやー良かった良かった。

赤池 あ！課長！

山崎 どうしたんですか？

豊島 いやぁ鉄工所の納期の件でちょっとね。・・・赤池くん、

どうしたの？

赤池 え！？

元氣いいね！何か良いことあった？

赤池 え！（山崎を見る）無いっす！無いっす！

豊島 そう？何か妙にテンション高いけど。

山崎 いや、赤池さっきエナジードリンクがぶ飲みしてたんで、

え？飲んで無いけど。・・・は？それ俺じゃなくない？

山崎 ・・・。

豊島 ちょっと、急に喧嘩するのやめてよ。さっきのテンション

どこ行つたの？

赤池 え！？いやいや！普通ですから！俺はテンション上がるような事何にもないですから！な？俺は、テンション上がるような事何も無いもんな？

山崎 まあ……。

豊島 ん？じゃあ山崎くんは何かあるの？

赤池 いやいやいやいや！いやいやいやいや！落ち着いてください！

山崎 お前が落ち着け！

赤池 いいですか？（山崎を見る）誰も、誕生日じゃあ、ないんじゃない、

かも知れない、もんなあ？

豊島 え？

山崎 赤池、

豊島 山崎くん誕生日なの？

赤池 え！？

山崎 いやあ、

豊島 あ！……大丈夫。人事に聞くから。

山崎 誕生日です！

豊島 え？

山崎 誕生日です、俺、今日。

赤池 （ため息）

山崎 いやお前のせいだよ？

豊島 山崎くん誕生日なの？

山崎 あ、はい。

豊島 早く言つてよ！みんな知ってるの？

山崎 いや、

豊島 じゃあ社内メールだね！

山崎 いやいやいやいや！大丈夫です！そこまでしなくて！

豊島 いや、でも誕生日なんでしょ？

山崎 誕生日ですけど！

豊島 ね？じゃあ何人来るか確認しないと、予約出来ないでしょ？

山崎 いや、なんですか予約って！いいですよ！何もしなくて！

豊島 いや、一応さ、ダメもとで電話してみようよ。空いてるかもしれない

し、ディナークルーズ。

山崎 ディナークルーズ！ディナークルーズ！

豊島 あ、大丈夫。心配しないで。お金は俺が出すから。

山崎 だから止めてるんです！いくらすると思ってるんですか！

豊島 確か、

山崎 知ってます！課長がディナークルーズの値段知ってるの知ってます！

だって本当に行ったの知ってるから！

赤池 伝説ですからね。課長が受付の浜田さんの誕生日にみんなをディナークルーズに連れてった話。

豊島 伝説って大袈裟だなあ。

山崎 大袈裟じゃないです。その後のしばらく昼飯抜きで過ごしてた話も含めて伝説です。

豊島 そうなの？

山崎 はい。あの大丈夫なんです。別に誕生日だけど何もしなくても。

豊島 いやいやそういう訳にはいかないでしょ。

山崎 いや、本当に何もしなくていいですから、

豊島 あ、あ、ちょっと待って。

豊島が一旦去る。部屋の外から豊島と三田の声が聞こえる。

豊島 部長！部長！こっちはです！

三田 痛た！何！？何！？

山崎 いやいやいや！何でもありません！何でもありません！

豊島が三田の胸ぐらを掴んで連れてくる。

三田 襟を、襟を引っ張るんじゃない！

豊島 いやあ部長良いところに。

三田 何？どうしたの？

赤池 いやあ・・・大した事じゃないんですけど・・・。

三田 私、大した事じゃないのに襟引っ張られて連れてこられたの？

赤池 ……いやあ……。

豊島 部長、大した事じゃないのに襟引っ張る訳ないじゃないですか。

三田 そうだよね。

豊島 まさに驚天動地の大事件！

三田 驚天動地の大事件？

赤池 そんなハードル上げなくても……。

豊島 なんと！ここにいる山崎くん！……本日誕生日です！おめでとうございまーす！

豊島が拍手。気まずそうな山崎を見る三田。

三田 ……そうなの？

山崎 ……はい。

三田、襟を見る。山崎を見る。豊島を見る。襟を触る。山崎を見る。気まずい山崎。

三田 おめでとう。

山崎 ありがとうございます……。

三田 もう……いいかな？

山崎 ……はい。

豊島 待ってください！ちょっと待ってください！山崎くんはウチの課の
エースでして、

三田 エース？

豊島 はい。字が綺麗なんです。そんなエースの山崎くんの誕生日会がこの
あと開催されるんですが、そこで部長にスピーチをお願いできません
か？

山崎 いやいやいやいや！

三田 スピーチ？誕生日会で？

山崎 やりません！誕生日会、やりません！

豊島 大丈夫だって！心配しなくても！あの、場所はクルーズ船を貸し切っ
てですね、

三田 クルーズ船！？

山崎 いやいやいや！

三田 そんな大掛かりな会なの？

豊島 部長、誕生日っていうのはですね、全ての人が、一年に一度、平等に
与えられたお祭りなんです。私はそんな祭りに、全力で当たりたい。

赤池 全力すぎるんだよね。

豊島 お願いします！部長だけが頼りなんです！

三田 まあ、そんなに言われたらね。

山・赤 いやいやいやいや！

山崎 いいです！いいです！スピーチなんかしなくて！

三田 え？「なんか」？

山崎 いやあの、課長！俺、誕生日会は自分で企画します！

赤池 え？

山崎 課長は何もしなくて大丈夫です。俺の祭は、俺が仕切りますから！

豊島がゆっくと拍手をする。

赤池 課長……。

三田 何が起きているんだ……。

豊島 確かに。確かに山崎くんという通り、君の誕生日という祭りは、君が取り仕切るべきだね。どうやら私は少し……お節介だったようだね。ええ……だいぶ。

山崎 それじゃあ君の誕生日会は、君に任せたま。私は社長の誕生日にサブライズで発注した、巨大社長モニュメントの置き場所を見繕ってくるから。

赤池 巨大社長モニュメント？

豊島 うん。鉄工所から連絡があつてね、社長の誕生日には間に合うみたいだから。

赤池 へえー……。

豊島 ……山崎くん。良い誕生日に、なるといいね。

山崎 あ、はい……。

豊島が去る。取り残され気まずい三人。

三田 ……スピーチは……？

山崎 結構です。

三田 あ、うん。

暗転。